Title	ジョン・ウォルター・ウッド著 空港：設計諸要素の一端と将来の発展
Sub Title	
Author	三邊, 清一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1942
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.36, No.8 (1942. 8) ,p.719(99)- 722(102)
JaLC DOI	10.14991/001.19420801-0099
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19420801-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

として戦争經濟學を要求して居つたのでありますが、フランチツ・オイレンブルクは、戦争經濟を以つて一般經濟の單なる變更に過ぎないものと見ておます。戦争經濟學に眞實の理論的基礎が有るか如何か、戦時經濟現象は實に經濟政策のみではなく、果して經濟理論をも動かすものであるか如何かは、疑問であります。

是れを以つて此の蕪雜至極な報告を終ることゝします。御清聽を深く感謝致します。

ジョン・ツオルター・ウッド著

「空 港——設計諸要素の一端と將來の發展」

John Walter Wood: Airports. Some elements of design and futur development.
New York, Coward-McCann Inc. 1940. pp. xvi, 364. Plates, 62.

三 邊 清 一 郎

空港の施設と設計が航空輸送の急速な發展に伴つて居ない。現存のアメリカ及びヨーロッパの空港はすべて現状に不適當である。原因は、その設計が地均し、排水、離着陸區域の照明、滑走路、諸建築物の構造、その他必要設備の設計が個々別々に、關係なく、考へられてゐる事實に基くところが多い。これ等の諸要素は、設計の初めに於いて、將來の發展を積へて、充分包括的な、伸縮性ある、緊密な計畫がたてられて居らねばならない。この見地から空港の設計に關し全般に通ずる原理的體系を樹て、見たいといふのが著者の本書に企圖するところである。

本書は三部に分ち、第一部では空港の諸要件を、第二部では南北アメリカ及びヨーロッパの四十八空港の比較を、そして第三部では自己の提案として「輸送管理、擴張可能空港案」なるものを論じてゐる。

第一部で著者は空港計畫は大略次の四階段に分たれるものとする。

「空港—設計諸要素の案の一端と將來の發展」

- 一、資金の調達
- 二、空港の位置の選擇
- 三、空港の設計の決定
- 四、空港の構築

空港の構築は更らに次の諸點を含む。

(イ)、離着陸區域の障害物除去、(ロ)、離着陸區域の地均し、(ハ)、離着陸區域排水施設の設置、(ニ)、滑走路の構築、(ホ)、照明設備の取付け、(ヘ)、格納庫及び事務所の建造、(ト)補助設備の設置。

右のうち三、空港の設計は全空港計畫の根幹をなすものであり、四の構築諸作業はその決定を見るまで決して着手してならぬと著者は言つてゐる。

第一に關してはエンヂニヤである著者は資格なしと認められたものか一言も觸れてゐない。第二の空港の位置の選定に就いては、次の諸條件を考ふべきであるとす。 (一)、輸送機關體系との關係、(二)、自然環境(隣接地域の丘陵、建造物、橋梁、ガスタンク等)、(三)、地方氣象(恒風の速力、變化、その他霧、煤煙等)、(四)、地勢、(五)、交通、(六)、形狀、(七)、規模、(八)、標高、(九)、方位、(一〇)、土壤、(一一)、地方施設(水道、電力等)、(一二)、擴張、(一三)、費用、(一四)、土地の留保(將來の發展のために)。なほこの外水上空港としての顧慮がなければならぬ。着水面に關しては、水深、シエルター、水流等が考慮に入る。

第三の空港の設計に當つては、(一)、離着陸區域、(二)、荷役場、(三)、事務所、(四)、擴張豫定地に就いて考慮されなければならぬ。離着陸區域では輸送循環を單純秩序あるものとし、交叉クロスすることがあつてはならぬ。港内の輸

送循環を圓滑ならしめるためには、滑走路は恒風、隣接地區の自然的、人為的障害、使用機の性能に關し適當な考慮を拂ひ、荷役場に近く設けられなければならない。また離着陸が同時に行はれるやうに、滑走路は充分廣く作られるか、平行したものが造られなければならない。

そしてこの諸條件を満たすものとして工夫せられたのが、第三部に於ける著者の所謂「輸送管理、擴張可能空港案」 a traffic-control airport-expansion plan. である。ニューヨークのラ・ガルヂェ・フィールド・エアポートでは既に一日に二八三回の發着と一日平均二五〇回のそれが報ぜられてゐる。これは二十四時間を通じ毎時十機が發着し、同じく二十四時間を通じ毎六分一機が發着することを意味する。これが航空輸送發達の現狀である。著者はその完成した形では、本プランは六四〇エーカーの面積と六本の滑走路(二本づゝ平行する)から成り、なほ若干年間に達することなき、安全性を害はぬ最高輸送循環に應ずるものであるといふ。この案は最初から全部の設計を準備する必要としない。輸送頻度の増加とも設備を増設して行つて差支へない。その意味に於いて airport expansion たるのである。また輸送頻度が増加しても港内の循環が交叉しないやうに滑走路その他施設が按配せられて居、そしてその意味に於いて traffic-control なのである。

著者はこの結論を得るために八年の準備を費し、その間歐米各國の既設重要空港を視察して、その設計の比較と分析を行つた。その收獲がすなはち本書の第二部をなすのであつて、そのうちに南北アメリカ及びヨーロッパ十六箇國の四十八空港の設計圖と實景寫眞及び説明が收められてゐる。本書に於いて著者の勞作の最も秘められたのは、寧ろこの部分であつて、殊に空港が軍事上もつ意味を考へるとき、そこに納められた敵國二十二港の設計圖と實景寫眞とは吾々の特殊の興味を惹かざるを得ない。私がこゝに本書の紹介を試みるのもすなはち一にはその故に外なら

「空港」設計諸要素の一端を將來の發展
 ないのである。(三越賣價、五十六圓二十五錢)

1011 (7111)

前號 (第三十六卷) (七月號)

目次

- 村明細帳と農村の貨幣經濟化……野村兼太郎
- 現代の統制經濟の性格と問題……氣賀健三
- 沼津版「經濟說略」……三邊清一郎
- 上原專祿著「獨逸中世史研究」……高村象平

購 一 部 金五拾錢 郵税金 貳錢
 讀 半ヶ年分 金貳圓九拾錢 郵税金拾貳錢
 料 一ヶ年分 金五圓四拾錢 郵税金貳拾四錢

編輯及び事務に關する一切の用件は發行所へ
 營業に關する用件は發賣所へ
 原稿締切期日は發行前月十日

昭和十七年七月二十五日印刷納本
 昭和十七年八月一日發行
 每月一回一日發行

三田學會雜誌 第三十六卷第八號
 編輯者 東京市芝區三田慶應義塾内 江田 範 保
 發行所 東京市赤坂區新町五ノ四二 金子 鐵 五 郎
 印刷所 東京市赤坂區新町五ノ四二 金子 活 版 所

發行所 東京市芝區三田慶應義塾内 理 財 學 會
 配給元 東京市神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社
 發賣所 東京市芝區三田二ノ九 慶 應 出 版 社
 購讀申込は慶應出版社へ
 電話三田(六)二七九一番
 接替東京一五八一八〇番